

8-4-25 社会マネジメント技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

社会マネジメント技術委員会を3回（7月、9月、2月）開催した。

社会マネジメント技術委員会を開催しない月でもメール等を活用し、後述する上位委員会から依頼される検討事項や傘下の専門委員会に関する情報交換を実施した（専門委員会・WGの月次報告・イベント報告、統括技術委員会・技術部会の審議・指示事項の周知・対応等）。

(2) 専門委員会の事業内容等について

本技術委員会傘下の専門委員会における令和2年度の主な活動内容等について以下に示す。

a) 都市計画専門委員会：令和2年度は未実施となったが、「都市計画講習会」の企画・開催など現在の取り組みを継承。また、毎年継続業務として実施しているRCCM教材作成については、今後も都市計画関連制度の動向に合わせて随時改定を実施。

b) 参加型計画専門委員会：①共助WG（情報プラットフォーム、通報システム等）、②施設運営＋エリマネWG（SROI評価）、③都市・地域の新たな動きWGと、3WGの継続活動と8月には外部講師を招いた参加型マネジメント手法の最新動向の講演と建コン事業におけるSROIの活用可能性検討を実施。

c) 政策・事業評価専門委員会：MaaSの観点から乗り合い送迎サービスなど、新たなモビリティに関する民間の取り組みがスピードアップしているため、広く情報を収集すると共に、積極的な視察実施の可能性を検討。

d) 環境専門委員会：RCCM教材作成など現在の取り組みを継承。10月には環境専門委員会セミナー開催、3月には日本生態学会大会「キャリア支援相談ブース」への出展および「キャリア支援セミナー（座談会）」講演者の派遣を実施。また、建コン協代表として、グリーン購入法に関する国交省委員会「公共工事の

環境負荷低減施策推進委員会」の委員として参加。

e) 施工管理専門委員会：継続して実施しているRCCM教材作成や施工管理業務実態調査としてのアンケート調査の経年比較を実施。

f) 国土情報専門委員会：建設コンサルタンツ業界におけるAI関連の取り組み状況、AI適用事例収集など、AI活用に関する可能性検討に加え、委員会に新規企画メンバーを迎えての流域情報基盤の検討を開始。

g) 自動運転WG：11月に自動運転バス試乗と柏の葉スマートシティツアー（視察）を実施。引き続き建設コンサルタンツの市場形成動向に注視が必要なことから、基本的には現在の取り組みを継承。

(3) 個別検討テーマへの対応

統括技術委員会からの依頼事項の中で主な検討内容について以下に示す。

a) プロボ簡素化・拡大方策について

手続きの簡素化、ヒアリングのみにする、特定テーマのみにするなどの簡素化案や拡大方策については、統一書式のチェックリスト（共通編、各分野版）に対する意見集約を行った。

b) その他

新技術導入評価テーマ設定やR2年度共通仕様書・歩掛り改定要望についての意見収集、国総研・土研との共同研究テーマの検討、R02技術者資格登録申請資料の確認などを行った。

2. 次年度の活動について

社会マネジメント技術委員会として令和元年度から始まった本事業を引き続き実施する。

(1) 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動

(2) 委員会が対応すべき分野横断的な諸テーマの検討、特に統括技術委員会等から依頼される各種検討事項等への対応

(3) 技術部会からの指示事項の検討・傘下の専門委員会から要望の検討、上位機関への上程

（社会マネジメント技術委員会委員長 篠崎 毅）